

1 教科領域研究テーマ

生活や社会の中の美術や美術文化と主体的に関わろうとする生徒の育成
ー生徒の見方や感じ方を広げ、メタ認知力の向上を促す学習展開と評価の工夫ー

2 研究テーマ設定の理由

美術科では、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指している。生徒が美術科の学習を通して、エージェンシーを発揮しながら、社会の中の美術と主体的に関わろうとする姿勢を身に付けることができれば、自分たちの力でよりよいものを生み出し、よりよい未来を拓く力を育むことができるのではないかと考える。昨年度は、実生活や社会を意識した題材や、生徒が活動内容を選択することのできる題材を用いることで、主体的な学びを促進する研究を行った。その結果、生徒の活動内容の幅が広がることにより、自らの考えを深め、多様な表現につなげようとする生徒が増えた。また、デジタルポートフォリオを活用し、学習の過程を見守りながら支援を行ったことで、生徒が見通しや目標を持ち、達成に向けて粘り強く取り組むことができた。今年度はこれらの実践を続けながら、生徒が相互評価や意見交換をする場面の設定を工夫し、より一層生徒の見方や考え方を広げさせたい。それにより、生徒が自己評価の客観性を高め、自己調整をしながら取り組むことができるようにしていきたい。

3 具体的な研究内容・方法

(1) デジタルポートフォリオを活用した振り返りの工夫

昨年度の研究では、デジタルポートフォリオを用いて制作過程を確認することで、生徒が目標達成への見通しを持ちながら意欲的に取り組むことができていた。その一方で、生徒によってねらいの理解や自己評価の客観性に差があり、学びの深化に影響があった。そのため、今年度は振り返りの場面において、生徒相互で評価し合い、意見交換をする場面を設定し、生徒が互いの課題や目標達成への手立てなどを助言し合う活動を行う。より効果的な振り返りの場にしていくために、デジタルポートフォリオを活用するとともに、題材のねらいと評価のポイントを明確にし、後述する鑑賞活動の充実と合わせて実践していきたい。

(2) 鑑賞活動の充実

表現と鑑賞がつながり合い、相乗的な効果を引き出せるようにするために、鑑賞の題材選定や活動を行うタイミングなどを考慮して指導計画を作成する。また、美術作品の鑑賞と制作途中作品の相互鑑賞を関連させることで、生徒が見方や考え方を広げ、自己の課題を見つめ直し、考えを練り直すことができるようにしたい。

4 校内授業研究計画

2年生10月